

令和4年度  
学校自己評価報告書

令和5年5月29日  
学校法人 中央医療学園  
中央医療技術専門学校

## 令和4年度 学校自己評価について

1. 教育理念・教育目標
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献

# 令和4年度 学校自己評価について

学校法人 中央医療学園 中央医療技術専門学校は、東京都葛飾区で診療放射線技師を養成する教育機関として、昭和 34 年に開校しました。実践的な職業教育により、最前線で活躍できる診療放射線技師の育成を行っております。

本校では、平成 30 年度より、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目を作成し、現状・課題の把握および改善策の検討・実施いたしました。

また、評価にあたっては、平成 14 年度から実施している学生授業評価アンケートの今年度の結果なども踏まえて行っています。今後は、この学校自己評価の結果を生かして、教育の質を向上してまいります。

## 1. 対象期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

## 2. 実施方法

学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会で評価を行った。

- ・委員会の構成は、委員長を学校長とし、委員は法人事務局長、教務部長、法人事務局次長（財務）、教務部参与、教務課長、学生課長、学校総務課長（事務長）とした。
- ・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価段階を 4 段階（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とし、各項目について評価をした。
- ・評価は、年一回年度末に行うこととした。
- ・評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行った。

# 1. 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	特色ある職業教育が行なわれているか	3
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を持っているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4

## 〈現状〉

- ・本校の目的は、医療の発展と国民の健康に寄与する診療放射線技師の養成にある。そのため、教育理念として「現場で活躍できる職業人の育成」を掲げ、入学直後から病院見学を取り入れるなど、より実践的な教育を行ってきたが、新型コロナウイルス感染対策で昨年度に続いて実施出来なかった。
- ・本校は、診療放射線技師を養成する単科の学校であり、開校以来 60 年の歴史をもち、日本で最も多くの診療放射線技師を育てている学校の一つである。また、開学以来、夜間の過程を設置し働きながら学べる環境を提供し続けている。
- ・医療界のニーズとして、診療放射線技師教育には 4 年制教育を求めている、そのニーズにこたえるため、将来的には本校も 4 年制（大学）を目指している。
- ・ホームページに「建学の精神として」理念の概要を明記し、本校を志望する受験生および保護者に知らしめている。

## 〈今後の改善方策〉

- ・ホームページ更新に当たり、教員紹介の頁を充実させる。専任教員全員の担当教科を明記し、学生へのメッセージを掲載する。また、了解が得られれば写真も掲載したい。
- ・昨年度より、放射線技師の英会話力の向上を目的として、英会話教室 NOVA から外国人講師を招聘し、学生に実践的な英会話授業を提供しているが、今後も継続する。
- ・昨年度より、学生に学校への愛着を深めさせるため、週に一度、授業開始前に校歌を流しているが、今後も継続する。
- ・校訓である「深い人類愛」、「強い探究心」を前面に掲げ、学力・技術力・研究心を身につけることはもちろん、将来医療技術者として必要となる人に対する思いやりや心遣いの重要性を、より一層力を入れて教育していく。また上記のことを、学校説明会などを通して積極的に広報していく。

## 2. 学校運営

	評価項目	評価
1	目的に沿った事業計画が策定されているか	4
2	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能しているか	4
3	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
4	情報のシステム化による業務の効率化が図られているか	3

### 〈現状〉

- ・毎月全体会議前に理事長も出席する役職者会議を開催し、学校運営に係わることについて確認、意思統一を図っている。役職者会議で決議されたことは学校の職員・教員合同の全体会議で報告し、学校運営の意思統一を図ると共に、役職者会議・全体会議のそれぞれの議事録を作成し、齟齬が生じないようにしている。
- ・本校で作成している事業計画は単年度の事業計画の策定で、次年度の予算や授業の運営がある程度目処がたった時点で予算と授業運営に沿った事業計画を策定している。
- ・規程集（学校法人寄附行為・就業規則・組織規程・給与規程・研修規程等）は教務室およびファイルサーバーの共有に置いてあり何時でも誰でも閲覧できるようにしている。
- ・就業規則および就業規則附則規程（給与規程、退職金規程、旅費規程、慶弔金・見舞金支給規程、育児・介護休業規程、非常勤規程、臨時職員・嘱託職員規程）を改正した。主なものは、旧荒川校関連規定の削除、有給休暇の時間単位で取得、男子の育児休業の追加、子の看護休暇等、教職員の労働環境を改善した。
- ・昨年度変更した学則別表1の教育課程をガイダンスで細かく説明し、学生への周知を徹底している。
- ・学生管理は、専用ソフトを使用し学生募集から卒業までを管理している。また、学内には職員共通のファイルサーバーを置き、情報共有に努めている。
- ・令和4年度も学生連絡用 Drop Box 掲示板を使用して学生への連絡を行った。

### 〈今後の改善方策〉

- ・サーバー（ファイルサーバー、学籍管理サーバー）のバックアップは常に行っているが、災害時に対応する二次的なバックアップの方法を前年度に引き続き検討する。
- ・現在使用しているサーバーと教務室等で使用している Wi-fi のアクセスポイントは、今年度で5年を経過するので、令和6年度での更新を視野に検討する。
- ・研修規程、教職員派遣規程、指定校推薦規程、奨学基金規程等を見直し、より良い学校運営ができるように整備していく。
- ・中期（2～3）年の事業計画の策定が可能か、関連各所と検討をしていく。

### 3. 教育活動

	評価項目	評価
1	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
2	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	3
3	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
4	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
5	授業評価の実施、評価体制が整っている	4
6	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	3
7	資格取得の指導体制はある	4

#### 〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所指定規則の改正に伴い令和4年度より新カリキュラムにより授業を行っている。新カリキュラムの実習においてOSCE（実習前の実技試験）の実習を取り入れ、現場での人材ニーズに合わせた講義・実習を取入れたカリキュラムを計画した。
- ・成績の評価は学則に則って行われており、講義については期末試験、実習については実習項目ごとに提出されるレポートをもって評価されている。また、最終的な単位の認定、進級、卒業の判定は学年末に行われる専任教員による教務会議によって行われた。進級要件など、学則の運用に必要な細目は細則に定め、実施した。
- ・授業内容・計画については、年度初めにシラバスを用いて、教科の目標、評価の基準などを学生に知らしめた。シラバスは、ホームページに掲載した。
- ・例年、授業評価については、学期ごとに学生に授業アンケート（マークシート・自由筆記・オンライン）を行い、教員にその内容をフィードバックした。
- ・今年度も年度末に教員のFDの一環として、外部講師を招き指導に対する講演を実施した。
- ・今年度は前期後期で外部の評価者を招き、非常勤講師・当校専任教員に対しFDの一環として、教員相互の授業参観を行った。
- ・最上級学年においては、診療放射線技師国家試験に向け、月に1回程度の模擬試験と夏季補講を実施、学生の学力の把握に努めた。また、試験結果において指導の必要が認められる学生については、個別に課題を与え指導している。専任教員から指導係を選任し、1～2名の留年生に対し学業指導を行った。
- ・来年度より学業に興味を向かせるためにグループ研究を計画した。
- ・入学前教育を行い基礎学力の向上を行った。

#### 〈今後の改善方策〉

##### ◎留年生対策

- ・留年生に対する少人数指導として、専任教員一人に2～3名を割当て指導する。

- ・指導教員が担当の留年生と面談を行い、個々の目標を設定させる。目標を達成するために個々にスケジュールを設定させ、進捗状況を適宜確認する。
- ・毎週模擬試験を行い、その結果をその少人数指導の資料とする。
- ・臨床実習中は別途時間割を組み、補講を継続する。

#### ◎国家試験対策

- ・国家試験形式の模擬試験を月に1回程度行う。模擬試験の結果で成績不良者には課題を与え指導を行なう。また夏休み中は対象者に補講を行なう。
- ・出席率向上を目指し、毎日、学生の出席状況を把握する。無断欠席をした学生には電話連絡をし、状況を確認のうえ出席するように促す。
- ・本校では、診療放射線技師国家資格取得が最も大きい目標の一つであるので、毎年、最上級生の指導については、担任を中心に全教員でより良い方法を常に議論・検討していく。
- ・学術グループ研究を行っていくことによる学業への興味の向上を行えるようにする。

## 4. 学修成果

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3

### 〈現状〉

- ・学生課の中に、就職担当を置き求人先や学生との対応を行っている。最上級生に対し4月中に就職活動に向けてのガイダンスを実施している。全体として履歴書の書き方や面接の受け方の指導を行うとともに、希望する学生については個別でも履歴書の添削や模擬面接の指導を行った。
- ・学生の就職希望施設に事前見学・研修や説明会の要望を連絡した。
- ・診療放射線技師国家試験の問題集・解説集を学校独自で作成し、最上級学生のみではなく昼間部2年生、夜間部3年生にも配布し、早期に国家試験に向けての意識を持つように指導した。
- ・1年時から、専門科目を取り入れることによって診療放射線技師を目指すモチベーションを維持してもらおう。また、例年、1年時春に、病院を見学し医療現場での業務内容を見てもらう事により、将来の自分をイメージさせ勉強に活かせてもらっていたが、本年度も新型コロナウイルス感染対策のため実施することができなかった。
- ・在学時から研究に興味をもっている学生は、例年、グループ研究として教員の指導のもと実験・研究を行い、纏めたものを日本放射線技術学会などで発表した。昨年度は日本放射線技術学会関東支部研究発表大会で研究発表を行った。
- ・卒業後、さらに上級の学校である大学や大学院を目指す学生のためには、編入学試験情報を掲示している。
- ・卒業時に、任意ではあるが卒業後の住所・就職先などを報告してもらい卒後教育などの連絡に充てている。
- ・国家試験不合格者には、学校で実施している国家試験形式の実力試験・医用放射線試験に参加を推奨している。
- ・今年度よりかつしかセミナー（既卒者国家試験直前講習会）の代わりとして希望者に対して国家試験解説動画の閲覧とCBT（Computer Based Testing）を実施できるようにした。
- ・中途退学や不登校の要因の1つに学生のメンタル面の弱さが考えられるので、専門のカウンセラーを置いてメンタルケアを行った。今年度はオンラインと対面でカウンセリングを実施した。

### 〈今後の改善方策〉

- ・基礎力リサーチを行い学生個々の学力や修学に対するモチベーションなどを把握していく。
- ・既卒者の希望者に対して国家試験解説動画の閲覧とCBT（Computer Based Testing）を継続していく。



## 5. 学生支援

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3

### 〈現状〉

- ・今年度の求人数については全体的にやや減少傾向であった。就職支援については4-1「就職率の向上が図られているか」に記述。
  - ・求人情報についてはPDF化することにより校内のみに限らず、校外でも閲覧できるように引き続き配慮した。
  - ・学生の進路の一つに大学への編入があり、その進路支援のため、編入情報の提供、入学試験指導（過去問題の提供や勉強方法のサポート等）を行っている。
  - ・学生相談室を設け学生の精神的な悩みや友人との問題などに対する専門家によるカウンセリングを行っている。利用方法等についてはクラウド上の掲示や校内一斉メールにて学生に周知をした。
  - ・例年実施している新入生向けのカウンセラーによる臨時講義に代えて、本年度よりカウンセラーの先生には前期授業の1教科を担当してもらい、臨床心理士の立場から講義を実施していただいている。
  - ・学生本人又保護者の経済的急変に備え、学校独自の奨学金制度を設けている。無利子の奨学金で、卒業後に定額を返還するシステムである。
  - ・学生の健康管理については、年一度の健康診断を行い、結果を学生に渡している。
  - ・近隣病院マップを教職員と学生に共有している。
  - ・課外活動は運動部としてバレー部、テニス部、Build up & Shape up 同好会など、文化部としてピエゾ（超音波）部、軽音楽部などがあり、若干の部費と活動場所を提供している。
- ※昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、課外活動は全て未実施となった。
- ・中央医療祭（学園祭）を学生主体で実施している。学生同士のコミュニケーションを図るとともに協力して一つのイベントを行う協調性や経済的、社会的適応能力を身に着ける事を目標として、学校として運営の補助や費用の負担等をしている。今年度においては、11月3日（文化の日）に感染対策をしながら実施した。また、近隣の自治会の協力もあり近隣住民を含め多くの方々に参加いただくことができた。
  - ・受動喫煙を考慮して校内は全て禁煙としている。

- ・ラウンジに電子レンジ、給湯器を配置して、学生の飲食を補助している。ラウンジの使用については、東京都の新型コロナウイルスの感染状況等を考慮し可能な範囲で使用した。
- ・保護者には半期ごとに成績送付、最上級生には模擬試験の成績送付や保護者会などを行っている。また、学生の勤惰を早く把握してもらうため、学生が一定数（原則同一授業3回）欠席したときは、学生の同意をとり保護者に連絡をしている。
- ・最上級生時に、保護者会を設け学生の現況を説明し、国家試験に向けて保護者に協力をお願いしている。今年度においては11月5日（土）に保護者会を対面形式で実施した。
- ・既卒者を対象にした国家試験直前に実施しているかつしかセミナーの代わりとして専任教員が作成した国家試験解説動画の閲覧とCBT（Computer Based Testing）が実施出来る環境を整え、ホームページや「かつしかだより」で告知し、8月末より希望者に対して実施した。
- ・感染対策を取ることで既卒者に対しての図書室の利用を実施した。
- ・既卒者の就職について、学生課の就職担当が在校生と同様に就職支援の対応をしている。
- ・学生の個人ロッカーを1号館教室内および4号館廊下に設置した。

#### 〈今後の改善方策〉

- ・新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、課外活動や学校内の施設（2号館屋上）の再開活動の基準について検討する。

## 6. 教育環境

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	3
2	実習などについて、十分な教育体制が整っているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3

### 〈現状〉

- ・全面对面授業を実施した。
- ・学生からの質問に答えられるように学生用のメール受付を行った。
- ・学生がより良い学校生活を送れるよう、基礎医学実習室の暗幕をブラインドに交換、ガラスの交換補修を行った。
- ・校内学生実習用放射線器具・設備に関しては診療放射線技師養成所指定規則に従って準備されている。学生の学習用図書は図書室に一万冊以上の蔵書があり、パソコンによる検索が可能である。
- ・図書室は今年度は新型コロナウイルス感染対策で利用時間に制限を設け午前9時より午後8時までを開館時間とした。
- ・臨床実習においても診療放射線技師養成所指定規則に従って行っており、事前に病院実習先の方による説明会を行っている。
- ・防火に対する意識向上のため、地元消防署の協力のもと年一回の防災訓練を行っていたが、今年度も新型コロナウイルス感染対策で実施出来なかった。
- ・1号館の全教室に、簡易ではあるがスピーカーとワイヤレスマイクシステムを設置し、対面授業に支障がないように対応した。

### 〈今後の目標〉

- ・現在、放射線医療における医療機器は日進月歩の進化を遂げている。今後、最新の放射線医療に対応できるようにデジタル撮影装置などによる校内実習の実現や、コンピュータ社会への対応が可能な人材育成を行っていく。
- ・指定規則の変更で、使用しなくなった自動現像機のある暗室の再利用方法を引き続き検討していく。
- ・令和6年度に向けて、教員と学生が情報共有するためのWi-fiの導入を検討する。
- ・今後、新型コロナウイルス感染症の状況により、教室の配分を再検討していく。

## 7. 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	入学選考は、適正かつ公平な基準により行われているか	4
4	学納金は、妥当なものとなっているか	4

### 〈現状〉

- ・例年、パンフレットおよび学生募集要項を作成し、全国の受験生に対し配布を行っている。また、高校訪問のほかにWebでも学校説明会を行い、当校の特色や卒業後の進路などの説明を行っている。
- ・校内においても、年に13回の学校説明会を行い、診療放射線技師国家試験の現状や就職に関する情報を説明している。校内見学においては実際に当校の施設を見学してもらい当校の特色を理解してもらっている。また、例年好評である体験入学の回数を増やし実施した。
- ・ホームページをリニューアルするとともに、SNS（インスタグラム・YouTube）を活用した配信を行った。また、広報活動として外部業者を経由した資料請求も多くあることから、オープンキャンパスの風景動画（OCストーリーズ）の配信を行った。
- ・当校の学生募集要項やホームページにおいて当校の国家試験合格率の結果報告や国家試験に対する学生受験対策の内容を掲載している。
- ・当校入学選考審査は学内に入試委員会を設け、入試問題の作成・実施・採点を行い、入試問題に対し適切な試験問題が作成されているか検討を行っている。
- ・入試形態においては、第4回一般入学試験を夜間部のみの募集から昼・夜間部の募集へと変更した。また、一般入学試験での筆記試験の科目について検討し、国語を廃止した。
- ・入学選考審査は筆記試験（試験時間60分）と受験生個人面接試験（面接官2名）を行い、筆記試験成績上位者および面接合格者の中より選抜を行っている。最終的な合格者は教務会議において最終決定される。
- ・本年度より指定校推薦入学試験を実施した。
- ・学納金は同分野の学納金水準を把握、勘案し適正に設定している。必要な費用はすべて募集要項に記載しており、入学後に別途徴収することのないよう配慮している。

### 〈今後の検討要綱〉

- ・校内で実施している学校説明会については実施する時期により参加者（高校生の学年等）や求められる情報も異なることから、今後においても実施したアンケートなどをもとに内容の検討を行っていく。
- ・引き続き、広報活動として高校訪問を行っていく。
- ・SNS（インスタグラム・YouTube）の配信回数を増やしていく。
- ・遠方の学生の為にWeb説明会の開催を増やすことを検討する。
- ・指定校推薦入学試験規程の見直しを行う。

## 8. 財務

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
2	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

### 〈現状〉

- ・少子化傾向が続く中、学生の定員確保が、収入の安定に繋がる。それとともに、収支のより緻密な分析が必要となる。学校全体では、事業活動収支計算書の当年度収支差額はプラスとなった。中央医療技術専門学校において、令和4年度は前年度と比較して、収入においては4月1日現在の在學生総数が前年度より36名減少しており、それにより収入も減少している。支出において、前年度は新型コロナウイルスの影響で支出が縮小されていたこと、今年度予想していなかった物価の高騰により支出が増加している。当年度収支差額はプラスとなっているが、物価の高騰はしばらく続くと思われる。支出についてはより精査する必要がある。学校全体として、令和4年度は平成28年に建設した4号館に対する借入金残高を一括で返済したため資金は減少している。これは一時的なことであるため財政基盤については安定していると言える。
- ・予算、収支計画については、各部門から予算立案書を提出してもらい、事業計画に基づき且つ前年度実績と比較をしながら予算案を作成している。令和4年度は大きな乖離はなく適正に執行された。大きな乖離が生じた場合は適切に補正措置を行う。令和5年度予算については収入について正確な数字を計上できるようにした。
- ・会計監査については、監事2名が事業説明を受けて、業務、財産の状況について監査を実施している。その結果を監査報告書に記載し、理事会および評議員会へ報告している。私立学校法および寄附行為に基づき、監事2名、税理士立ち合いのもと、監査を行った。
- ・財務情報に翌期の事業計画、予算書を加えた事業報告書を教務室においてあり、誰でも閲覧できるようにしている。平成30年度よりホームページに財務情報を公開している。

### 〈今後の方策〉

- ・令和5年度の入学者定員については、初めて指定校推薦入学試験を実施した。推薦入学試験、一般入学試験の応募状況が前年とは違っており、一般入試の応募が減少した。合わせて入学辞退者も多かったことから昼間部、夜間部において定員を満たすことができなかった。収入の安定に向けて原因究明と対策が必要となるのだが、前年と今年で状況も変化しているため現在の応募者の動向を精査していく必要がある。
- ・財務基盤の安定は学生数の維持が必要不可欠だが、並行して経費についても綿密に精査していく。物価の高騰により令和5年度の予算編成は、ほとんどの経費が増加となった。収入の維持、支出の精査を合わせて行っていく。

- 予算、収支計画については、事業計画、教育目標との整合性を図りつつ、各部門からの情報を正確に把握し、教育活動が計画通りに進行できるよう予算計画を策定していきたい。特に収入において、正確な数字を策定していきたい。
- 財務情報については、昨年同様にホームページ上に公開する予定である。

## 9. 法令等の遵守

	評価項目	評価
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

### 〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所設置基準・指定規則を遵守して学校運営を行っている。
- ・学生の成績等の学内掲示や保護者への送付については、事前に同意を得て行っている。また卒業後の住所、勤務先等の情報については、その取扱い毎に同意を得て取得している。
- ・自己評価委員会を設け評価している。評価後、委員会を開き項目ごとに検討した。
- ・個人情報の取り扱いについて個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を明確にしてホームページで公開した。
- ・個人情報保護方針にしたがいホームページの資料請求（学校案内書）およびオープンキャンパス等の申込みフォームからの収集した個人情報を適切に保護している。
- ・ホームページから証明書発行手続が行えるが本人確認方法が明確になっていない。
- ・平成30年度より自己評価結果をホームページで公開している。

### 〈今後の改善方策〉

- ・教職員・学生に対する法令等の遵守についてのセキュリティーポリシーの作成を検討する。
- ・ホームページから証明書発行手続の際の本人確認方法を明文化する。

## 10. 社会貢献

	評価項目	評価
1	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	—

### 〈現状〉

- ・地域の技師会・研究会などの為に施設を提供している。今年度においては、9月4日（日）に日本放射線治療専門放射線技師認定機構の試験会場として提供した。
- ・学生主体のボランティア団体（地域清掃）の活動を支援するとともに、費用の負担等を行い地域社会に貢献している。今年度においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学生活動は未実施となった。
- ・災害時等の避難場所として、災害時における相互協力の協定を葛飾区と本田町会との間で締結を継続している。

### 〈今後の改善方策〉

- ・新型コロナウイルス感染状況によりなかなか活動再開ができないが、ボランティア活動については状況を見ながら活動再開へ向けて検討していく。
- ・コロナ禍で一時中止していた献血を再開する方向で検討する。